



創立四十周年

賢く 優しく 逞しく

6月号・令和2年6月1日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/>

武蔵村山市立第五中学校

晴耕雨読

校長 榎戸 千代子

6月になりました。すでに、沖縄と奄美地方が梅雨に入っています。関東地方もいずれ梅雨入りとなり、雨の季節を迎えます。この時期の雨を、梅の実が熟する頃に降る雨の意で、「梅雨（つゆ）」や「梅雨（ばいう）」とよびますが、別名「五月雨（さみだれ）」とよぶことがあります。「さ」は「五月（さつき）」の「さ」、「みだれ」は「水垂（みだれ）」といわれています。陰暦五月の頃に降り続く長雨で、今の暦に合わせると6月の「梅雨」にあたります。「五月雨」といえば江戸時代の松尾芭蕉が「おくのほそ道」の中で詠んだ句が有名です。

五月雨を 集めてはやし 最上川 松尾芭蕉



芭蕉が実際に雨で増水した最上川（山形県にある川）を川下りしたときの経験を詠んだものといわれています。梅雨時の雨量の多さを実感させる句です。

「雨」といえばもう一つ、「晴耕雨読」という言葉があります。晴れた日は外で畑を耕し、雨の日は家で読書を楽しむという意味です。天候に合わせ、無理のない生活を送ることを表しています。学校は5月下旬より分散登校が始まりましたが、まだ家にいる機会が多いと思うので、これからの雨の季節のことを考えると、家の中で、どのように有効に過ごすのが重要となってきます。

ところで、新型コロナウイルス感染症の対策として、生徒の家庭におけるオンライン学習が大きく取り上げられるようになりました。本市においても、ネットワーク環境が整っていない生徒の世帯に対して、モバイルルーターやタブレットの貸し出しを始めました。また、本校でも「e ライブリアドバンス」を使った学習支援について、個々の生徒にIDとパスワードを発行し、活用を促進すると共に、文科省や東京都が推奨する「学びのサイト」をメール配信でお知らせしています。

一方、先日新聞に、この休校期間中に小中学生のスマホ利用の時間が増えたという記事が載っていました。学習サイトの活用ならうれしいのですが、動画の視聴やゲームなどで、スマホを使いすぎたり、ネットトラブルに巻き込まれたりするケースが増えているという内容でした。その中で、ある小学校に通う児童が自分の顔がはっきりとわかる写真をSNSにアップし、知らない男性から連絡先の交換の申し入れがあり、やり取りを始めてしまったというケースが掲載されていました。幸い、このケースでは親が気付いて大事には至らなかったようですが、家庭でも情報モラルを教え、子供がスマホを使うルールをつくることと、スマホをもつ子供に情報リテラシー（情報を使いこなす能力）を身に付けさせてほしいと書かれていました。

スマホを巡るトラブルは個人情報の流失、拡散の他、SNS上でのいじめや架空請求など多岐にわたります。親が買い与えるときに、これらの怖さを認識させ、家庭でのルールをぜひつくってほしいと思います。

政府は、これからは「with コロナ」で、感染リスクをコントロールしながら、私たちがコロナとともにどう暮らし、生活していくのが問われる「新たな日常」が始まると言っています。家庭で時間のあるときに、その時間を有効に使ってほしいと思います。晴雨問わず「読書」に親しんでみてはいかがでしょうか。書物は、知識や情報を得るだけでなく、発想力や想像力を豊かにし、思考力や表現力を伸ばします。本校でも平常授業が始まりましたら、朝読書を実施します。今後学校では、授業と家庭での学習を組み合わせ、不足分を補いながら学習を進めてまいります。

明るいあいさつ・みんなの笑顔 第五中学校区（二小・八小・十小・五中）